

社会貢献

行動憲章

沖電気グループは、良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、社会貢献活動に取り組みます。

あるべき姿

会社の資源を活用し、献血、災害復旧、社会福祉、地域・国際交流、科学技術振興、環境保全など、冲らしい社会貢献活動を実践・継続します。また、社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推進します。非政府組織（NGO）、非営利組織（NPO）と広く交流し、協力、協働します。

社会貢献の基本理念と活動体系

沖電気は、1996年4月に「社会貢献推進室」を設置し、社会貢献活動の基本理念・基本方針を定めて良き企業市民としてさまざまな活動に取り組んできました。会社として実施する寄付活動、商品・サービスを通じた活動、保有施設の開放などの活動を推進しているほか、社員のボランティア活動を支援しています。社員のボランティア活動には、一人あたり月々100円の募金による寄付型の活動と、社会福祉や環境保全などに関連する参加型の活動があり、いずれも社会貢献推進室が中心となって企画・推進し、沖電気グループ全体で展開しています。

社会貢献活動 基本理念・基本方針

基本理念

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。

基本方針

【会社の活動】

- 会社の資源（人材・資産）を活用し、地域や国情に合った社会貢献活動を継続する。
- 社員が誇りと活力を実感し、また企業イメージを高める冲らしい社会貢献活動を志向する。

【個人の活動】

- 社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨し、支援する。

スローガン

できることから始めよう!

「OKI愛の100円募金」活動

社員の寄付型ボランティア活動として、毎月100円の募金を集める「OKI愛の100円募金」を継続的に実施しています。この活動は、誰もが気軽に参加できる社会貢献活動として1996年に沖電気で開始し、2000年からは対象を沖電気グループ社員へと拡大しました。2005年3月31日現在、活動の主旨に賛同する沖電気グループ31社の社員が参加しています。

日本赤十字社に献血運搬車を寄贈

企業献血活動のバイオニア（P5参照）である沖電気は、社会貢献推進室を新設した1996年度から日本赤十字社

への血液事業支援を強化し、「OKI愛の100円募金」の募金総額に会社が同額を上乗せするマッチングギフトにより、献血運搬車などを寄贈しています。

2004年度は岐阜県赤十字血液センターに対し、保冷庫付の献血運搬車を寄贈しました。寄贈車両は、血液センターから病院などに輸血用血液を運ぶ血液輸送用緊急自動車として使用されます。



献血運搬車

難民キャンプなどへ古着を提供

沖電気グループは2001年度から、NGO「わかちあいプロジェクト」による難民支援活動の一つである「古着支援活動」に参加し、沖電気グループの全国の拠点で収集した古着を海外難民キャンプなどへ送付しています。

2004年度は全拠点合計で段ボール箱459個分の古着を集め、エリトリア、ザンビア、スワジランド、ルワンダ、インドネシアに送りました。この活動にあたり、各拠点から国内集荷場所までの輸送費および段ボール箱1個あたり1,500円の海外輸送費を「OKI愛の100円募金」から拠出しています。



古着支援活動

重度障害がある方の就労を支援

社会福祉法人東京コロニーの「トーコロ情報処理センター 職能開発室」が運営する「SOHO支援事業」を、「OKI愛の100円募金」により支援しています。

2000年4月に開始された同事業は、重度の障害があり通勤が困難な方を対象としたSOHOグループを結成し、ソフトウェア関連業務の受注・納品業務を受託することによって自立を図ることを目的としています。沖電気グループは、寄付を通じてSOHOグループのリーダー育成や技術教育、業務に必要な設備の整備などを支援しています。

社員が関わりをもつボランティア団体を支援

沖電気グループの社員が関わりをもつボランティア団体に対し、社員からの申請に基づいて「OKI愛の100円募金」による資金援助を行っています。2004年度は23団体を支援しました。

自然災害による被災地域への支援

新潟中越地震・スマトラ沖地震津波への災害義援金

沖電気は、2004年10月23日に発生した新潟中越地震で大きな被害を受けた新潟県および長岡市、小千谷市、山古志村など6市町村に対して、現金および当社製無線機器合わせて1,000万円相当の寄付・貸出を行いました。また、労働組合と協同の取り組みとして、グループ各社が社員に「新潟県中越地震災害義援金」を呼びかけ、集まった義援金911万6,108円を罹災したグループ社員とご家族に提供しました。

また、2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震による津波で大きな被害を受けたタイのマハー・チャクリ・シリントン王女、アユタヤ市、タイテレビ局 (ITV) に対し、(株) 沖データ

小諸市「森林(もり)の里親協定書」に調印

沖電気は2005年1月、長野県小諸市と「森林(もり)の里親協定書」を締結しました。沖電気と「OKI愛の100円募金」から折半で年間25万円ずつ、合計50万円を5年間小諸市に寄付し、野馬取地区をはじめとする小諸市の森林の里親として、総面積50haをめざした森林整備に参加します。里親となる森には、「沖電気グループが育てる森」と記した看板が立てられ、沖電気グループの社員が、長野県、小諸市、野馬取山林組合、そして地域住民の皆様と協働で森林ボランティア活動を実施していきます。また、地域の文化・産業に触れる場、地域住民の皆様との交流の場としても活用していく予定です。



森林(もり)の里親 協定調印式

ラオス語紙芝居の出版に協力

沖電気は、「OKI愛の100円募金」を活用して、2001年度から毎年、ラオス語絵本の出版に協力しています。2004年度はNPO法人「ラオスのこども」による紙芝居『サカナちゃんのお留守番』の現地出版にスポンサーとして協力しました。この紙芝居はラオス人作家による新作で、「ゴミを捨ててはいけません」というメッセージを通じて、環境保全の大切さを子どもたちに伝えています。

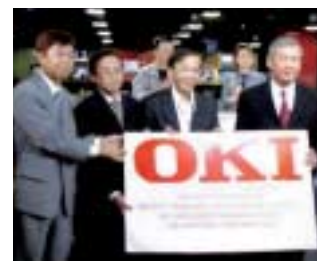


紙芝居「サカナちゃんのお留守番」

およびタイ国内のグループ会社4社 (Oki (Thailand) Co., Ltd.、Oki Data Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.、Oki Precision (Thailand) Co., Ltd.、Oki Systems (Thailand) Ltd.) が総額1,100万円の義援金を提供しました。



新潟中越地震への寄付・貸出



スマトラ沖地震への寄付

社員によるボランティア活動を支援

「OKI山と緑の協力隊」による森林ボランティア

沖電気グループでは、2001年度にNPO法人地球緑化センターの協力を得て「OKI山と緑の協力隊」を結成しました。以後、グループ社員およびその家族が、事業所のある各地で森林保護のためのボランティア活動を継続しています。

2004年度は、10月に群馬県松井田町にある野鳥の森・小根山森林公園での除伐・間伐作業に25名が参加しました。また、11月には参画以来4年目を迎える静岡県中伊豆の森林ボランティア活動に18名が参加し、杉・檜などの間伐を実施しました。これらの活動を通じて、社員・家族と地元の皆様との交流も深めることができました。

2005年度からは、長野県小諸市の「沖電気グループが育てる森」や群馬県の高崎観音山の「沖電気ふれあいの森」でも森林ボランティア活動を実施する予定です。



森林ボランティア活動の様子



OKI山と緑の協力隊

児童養護施設で竹とんぼ大会を実施

2004年11月、東京都内にある6つの児童養護施設の子どもたち25名を招待し、府中市郷土の森博物館で「2004竹とんぼ大会」を実施しました。沖電気グループの社員ボランティア12名が参加し、国際竹とんぼ協会の皆様の指導による竹とんぼづくりや的あてゲーム、博物館ボランティアのご協力による石臼の粉引き体験、江戸糸あやつり人形の公演鑑賞など、子どもたちとともに楽しい1日を過ごしました。



竹とんぼ手作り体験の様子

ラオス語絵本をつくって現地の子どもたちに寄贈

沖電気グループは毎年7月、NPO法人「ラオスのこども」の協力を得て「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」というイベントを実施しています。このイベントでは、沖電気および社員をはじめとする参加者が用意する日本語の絵本の本文部分に、「ラオスのこども」が用意するラオス語の翻訳を貼ってラオス語の絵本をつくります。5回目となった2004年度は、沖電気グループの社員とその家族17名、「ラオスのこども」からチャンタソン共同代表を含め6名、そして「ラオスのこども」の研修旅行に参加する学習院女子大学の皆さん10名の計33名が参加し、8種類60冊のラオス語絵本を完成させました。今回作成した絵本は、学習院女子大学の皆さんに手分けして現地に運んでいただきました。



ラオス語絵本作成イベント参加者の皆さん

三宅島島民ふれあい集会を支援

沖電気グループは、「三宅島島民ふれあい集会」に2002年度から参加し、社員ボランティアによるイベントの実施などを通じて参加者に楽しんでいただいています。この集会は、噴火による被災体験を共有する島民の皆様が励まし合い、絆をつなぐ場として2000年から年2回実施されてきたものです。

2004年は、5月の集会にNPO法人エブリィおよび(財)エンゼル財団との共催で「てあそびコーナー」を設置しました。また、11月の集会では(財)エンゼル財団および国際竹とんぼ協会との共催で「竹とんぼ手作り体験」ブースを開設しました。



てあそびコーナー(ピース細工に挑戦)



竹とんぼ手作り体験ブース

こども・夢・未来フェスティバルに参加

埼玉県では、地域の人々が子育てをはじめ家族に関わるさまざまな事柄を一緒に考えたり、遊んだりする参加型のイベント「こども・夢・未来フェスティバル」を毎年開催しています。沖電気グループは、2002年度から国際竹とんぼ協会の協力を得て「竹とんぼ手作り体験コーナー」を設置し、このフェスティバルに参加しています。2004年度は、沖電気グループの有志によって結成したアマチュアジャズバンド「ディキシークイーンズ」も初参加し、演奏を披露しました。



沖電気グループ有志によるジャズ演奏

各種の収集ボランティア活動を継続

沖電気グループでは、毎年、年末年始に「収集キャンペーン」を実施し、社員から募ったさまざまな物品を各団体に寄贈しています。書き損じはがき・未使用テレホンカードなどを活用してタイやラオスの子どもたちの進学・就学を支援しているほか、切手、そろばん、外国コイン、使用済みプリペイドカード、カレンダー・手帳、雑貨なども収集し、それぞれ寄贈先で活用いただいています。

社員の「買いボラ」を支援

沖電気グループは、障害者授産施設など社会就労施設で作られた商品やフェアトレード商品をグループイントラネット上で紹介しています。これにより、買い物をするだけでできる身近なボランティア活動（買いボラ）を社員に奨励しています。

NPOとのコミュニケーション

「NPO活動報告会」を実施

各種NPOの活動に対する理解を深め、コミュニケーションを促進するために、2004年8月27日に沖電気本社にて「NPO活動報告会」を実施しました。

当日は、「OKI愛の100円募金」で支援しているNPOのなかから2団体に来社いただきました。在宅福祉サービスボランティア活動の普及啓発や勤労者の社会参加促進に携わる（財）さわやか福祉財団の蒲田アドバイザーからは「勤労者のボランティア活動」について、また（財）日本シルバーボランティアズの羽賀理事からは「第二の人生でのボランティア活動」をテ-

マに、中高年の知識・技術などを開発途上地域に提供する活動を推進する同財団の活動について、それぞれお話しいただきました。



NPO活動報告会の様子



Topics 海外におけるグループ会社の活動事例

オイスカの植林活動を支援

（株）沖データは、地球規模で環境保全活動を展開するNGO「オイスカ(OISCA)」のパートナー企業として、世界各地の「子供の森」計画を支援しています。1999年に実施したフィジーへの社員ボランティア派遣を皮切りに、会社の売上金の一部および各種イベント会場で集まった募金をもとにした熱帯林の植林活動を継続的に実施しています。



フィジーでの植林活動に参加した社員ボランティア

「セーブ・ザ・チルドレン」の活動を支援

英国のOki Europe Ltd.は、国連の「子どもの権利条約」に基づいて子どもの権利の確保をめざす国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン」に、寄付およびプリンタ製品の寄贈などを実施しています。

